令和六年度　揖斐郡読書感想文審査を終えて

揖斐郡読書感想文推進委員会

今年度は一五九四点の応募がありました。これらを自由図書・課題図書部門に分けて学年部ごとに慎重に審査し、特選、入選、佳作を決定しました。

優れた感想文に共通していたのは、じっくりと選んだ本を読み、作品の主題を捉え、自身の体験と繋げながら、丁寧に感想を書いていたことでした。また、様々な社会問題に目を向け、今後自分がどのように行動していくべきか、本に書かれたことから自分の考えをまとめている感想文もありました。

審査をしていく中で気付いた点をいくつかまとめました。参考にしていただけたら幸いです。

（◇…よい点　□…改善点を表しています。）

【低学年の部】

◇物語の内容と、自分の経験を結びつけて共感した事実が書かれているものが多くあった。

◇本の内容から深く調べたいという思いを持ち、見学をしに行くなどの実体験につながって、説得力をもたせた文章が多くあった。

□原稿用紙の規定がさまざまであったため、統一していきたい。

【中学年の部】

◇はじめ（本を選んだ理由、自分の生活体験）、中（あらすじや自分の気づき等）、おわり（自分の考え、学んだことなど）の組み立てで書かれていた。

◇自由図書では自分の興味や生活に結びついている親しみやすい本を発達段階に合わせて選んでいた。

□本を読んで強く感動したことや学んだことを、自分の目線で書けると良い。

【高学年の部】

◇本の内容と実生活を結びつけながら、感動したことや改めて考えたことを感想文にまとめて書かれていた。

◇自分が体験できないことを祖父母や両親に聞いたり、授業で学んだことを結びつけて考えたりした作品があった。

□書き出しのインパクトや題名について工夫すると、読んだ人が分かりやすく、強い印象の感想文になる。

【中学校の部】

◇同年代が主人公となった作品を選んだ生徒が多かった。物語の登場人物に自分の姿を重ね、共通点を見つけながら書くことができていた。

◇登場人物の行動を自分なりに捉え、自分ならばどうするか、なぜそこに至ったのかを深く考え文章にしていた。

□感想の部分が多く、具体的に自分がこれからどうしていくのかが書かれていないものが多くあった。

今年度もたいへん多くの応募をいただき、ありがとうございました。今後も、すばらしい作品が一層増えることを願っています。